



ユーザ インターフェイス

Cisco Prime Collaboration Manager は、Web ベースのシンクライアント アプリケーションです。すべての Prime CM 機能を見るには、Adobe Flash Player が必要です。クライアントの要件の詳細については、『*Cisco Prime Collaboration Manager Quick Start Guide 1.2*』を参照してください。

ここでは、ほとんどのページに表示される Prime CM ユーザ インターフェイス コンポーネントの詳細を示します。

- [グローバル ツールバー](#)
- [サブメニュー](#)
- [ダッシュレット](#)
- [フィルタ](#)
- [クイック ビュー](#)
- [テーブル](#)
- [ツールバー アイコン](#)

グローバル ツールバー

Prime CM には、ページの中央に次の静的なグローバル ツールバーが組み込まれています (図 B-1 を参照)。

図 B-1 グローバル ツールバー : 中央



- [Home] : ビデオ コラボレーション ダッシュボード。セッション詳細、障害、エンドポイント詳細、およびインベントリ詳細など、ビデオ コラボレーション ネットワークのさまざまなセグメントの要約を表示します。これは、Prime CM アプリケーションのホームページです。
- [Monitoring] : 次の機能の起動ポイント。
 - [Monitoring] タスク : セッションおよびエンドポイント。
 - [Fault Management] タスク : アラームおよびイベント。
 - Proactive troubleshooting
 - Media Path Analysis
- [Inventory] : デバイス管理タスクの起動ポイント。
- [Reports] : レポート生成の起動ポイント。

- [Administration] : 次の機能の起動ポイント。
 - [Management] タスク : ジョブ、ユーザ、およびライセンス管理。
 - [Configuration] タスク : デバイス モニタリング、イベント、システム、タイムゾーン、および更新間隔の設定。

Prime CM には、ページの右上部にある次の静的なグローバル ツールバーが含まれています (図 B-2 を参照)。

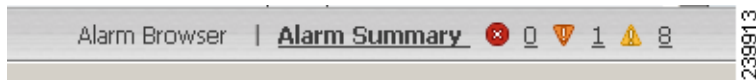
図 B-2 グローバル ツールバー : 右上



- [Refresh] : 現在アクティブなページを更新します。
- [Help] : Cisco Prime Collaboration Manager ヘルプ ページを起動します。
- [E-Learning] : Cisco Prime Collaboration Manager トレーニング VOD を起動します。
- [About] : [About this application] ページを起動します。
- [Admin (an user)] : Prime CM アプリケーションにログインしているユーザを示します。[Change Password] リンクにアクセスするには、ユーザ ログインリンクの上にマウスを移動します。
- [Log Out] : Prime CM アプリケーションからログアウトできます。

Prime CM には、ページの右下部にある次の静的なグローバル ツールバーが含まれています (図 B-3 を参照)。

図 B-3 グローバル ツールバー : 右下

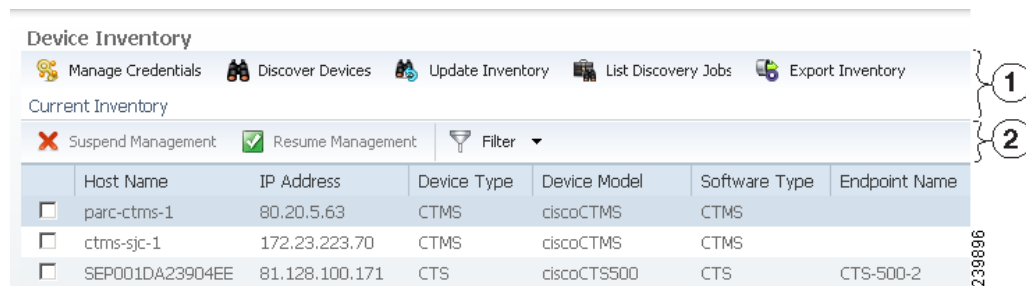


- [Alarm Browser] : アクティブ ページ (ページの下半分) 内にアラーム ブラウザを起動します。
- [Alarm Summary] : 重大、やや重大、比較的重大ではないアラームがすべて表示される、[alarm summary] ウィンドウを起動します。
- [Critical]、[Major]、[Minor] : アラームが含まれているデバイスまたはセッションがリストされるアラーム ブラウザを起動します。

サブメニュー

Prime CM UI は、サブメニュー (図 B-4 を参照) をページレベル (図 B-4 の引き出し線 1)、および一部のページではテーブルレベル (図 B-4 の引き出し線 2) で提供します。テーブルレベルのサブメニューでは、テーブルで項目を選択して、タスクを実行する必要があります。

図 B-4 サブメニュー



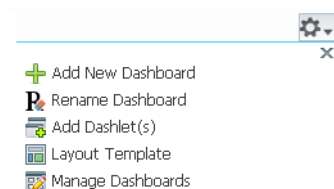
ダッシュレット

ダッシュレットは、要件に基づいてユーザ インターフェイスを最小化および最大化できるページの部分です。この機能は、[Home] メニューで使用できます。3 つのダッシュボード [Summary]、[Endpoints]、および [Infrastructure] が [Home] メニューの下にあります。

[Config] ボタン

[Config] ボタンは待ち受けページの右上にあり、これを使用してダッシュボードをカスタマイズできます。

図 B-5 [Config] ボタンおよびカスタマイズ オプション



フィルタ

フィルタ機能を使用して、Prime CM ユーザ インターフェイスで特定の情報を表示できます。データが表形式で表示されるときは常に [Filter] アイコンが表示されます。次に、Prime CM クライアントで使用可能なさまざまなタイプのフィルタを示します。

- [クイック フィルタ](#)
- [拡張フィルタ](#)
- [プリセット フィルタ](#)

クイック フィルタおよび拡張フィルタは、大文字と小文字を区別しません。これらのフィルタについては、ワイルドカード表現も使用できます。

- 任意の 1 文字だけを一致させる場合は感嘆符 (?) を使用します。
- 0 文字以上を一致させる場合はアスタリスク (*) を使用します。

クイック フィルタ

このフィルタを使用すると、フィルタを特定のテーブル列に適用することで、テーブル内のデータを絞り込むことができます。このフィルタとともに使用される演算子は、*Contains* です。さまざまな演算子を適用するには、[Advance Filter] オプションを使用します。

クイック フィルタを起動するには、[Filter] ドロップダウン メニューから [Quick Filter] を選択します。クイック フィルタをクリアするには、[Filter] ボタンをクリックします。

拡張フィルタ

このフィルタを使用すると、Does not contain、Does not equal、Ends with、Is empty など、複数の演算子を使用してフィルタを適用することによって、表内のデータを絞り込むことができます。

ドロップダウン メニューからフィルタ パターン（テーブル列名）と演算子を選択できます。さらに、Prime CM データベースで使用可能なデータに基づいて、フィルタ基準を入力する必要があります。

拡張フィルタを起動するには、[Filter] ドロップダウン メニューから [Advanced Filter] を選択します。

図 B-6 拡張フィルタ



拡張フィルタで使用するフィルタ基準を保存できます（図 B-6 を参照）。フィルタ基準を保存するには、次のようにします。

-
- ステップ 1** 拡張フィルタ基準を入力します。
 - ステップ 2** [Go] をクリックします。
フィルタ基準に基づいて、データがフィルタリングされます。
 - ステップ 3** [Save] アイコンをクリックします。
[Save Preset Filter] ウィンドウが表示されます。
 - ステップ 4** プリセット フィルタの名前を入力して、[Save] をクリックします。
[Preset Filter]（プリセット フィルタ）ドロップダウン メニューで保存したフィルタを表示できます。
拡張フィルタをクリアするには、[Filter] ボタンをクリックします。
-

プリセット フィルタ

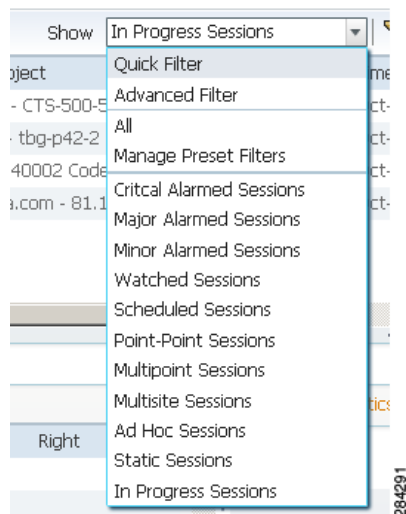
Prime CM には、データをフィルタリングするための事前定義済みのキーワードが用意されています。これに加えて、保存した拡張フィルタ基準も、[Present Filter] ドロップダウン メニューにリストされます。フィルタ基準を保存する方法の詳細については、「[拡張フィルタ](#)」(P.B-4) を参照してください。

この機能は、[Device Management]、[Alarms]、および [Event browsers] などの一部のページで使用可能です。プリセット フィルタを起動するには、[Show] ドロップダウン メニューから使用可能な値を選択します。


事前定義済みのフィルタ

Prime CM には、一連のフィルタが事前に定義されています。これにより、テーブル内にある既存のデータをフィルタリングできます。

図 B-7 事前定義済みのフィルタ



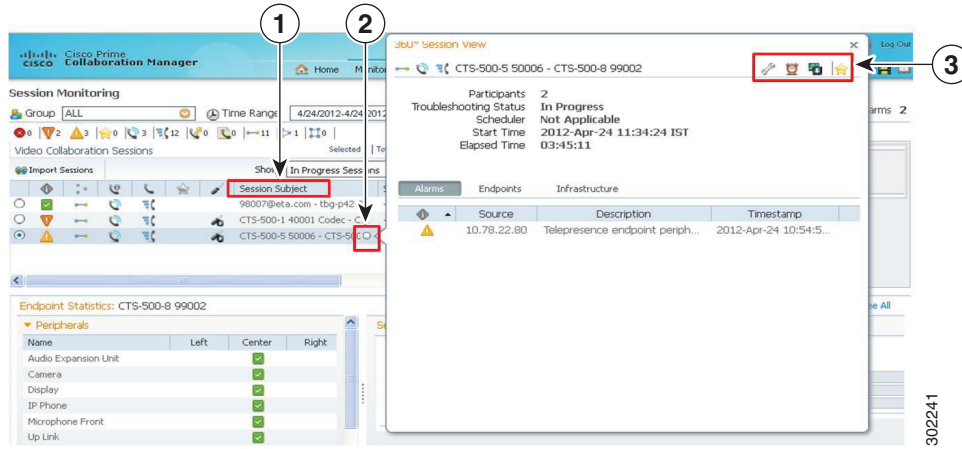
クイック ビュー

 このアイコンは、テーブル上での特定のテーブル列、または [topology] ペインにマウスを移動すると表示されます。

このアイコンは、クイック ビュー ウィンドウを起動するのに役立ちます。[Session Monitoring] ページの場合のみ、これは [360° Session View] になります。このウィンドウには、ウィンドウを起動したページに基づいて、エンドポイント、ネットワーク デバイス、サービス インフラストラクチャ、またはネットワーク リンクに関する概要が示されます。また、ウィンドウにはトラブルシューティング ページ、アラーム ブラウザ、エンドポイント モニタリング ページなどへの相互起動リンクも含まれています。

図 B-8 に、セッションの [360° Session View] の例を示します。

図 B-8 セッションの [360° Session View]

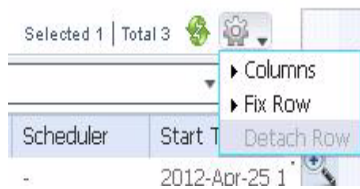


| | | | |
|---|--|---|------------------------------|
| 1 | [360° Session View] を表示するための [Session Subject] 列。 | 2 | [360° Session View] の起動ポイント。 |
| 3 | [360° Session View] ウィンドウ。ここからトラブルシューティング ワークフローの起動、エンドポイントのモニタ、関連するアラームの表示、監視リストに対するセッションの追加/削除を行えます。 | | |

テーブル

Prime CM では、テーブルをカスタマイズできます。Prime CM ユーザ インターフェイスで表示する列を選択できます。テーブル行を、テーブルの上部または下部のいずれかにロックすることもできます (図 B-9 を参照)。

図 B-9 テーブルのカスタマイズ



ツールバー アイコン

表 B-1 ツールバー アイコン

| アイコン | 説明 |
|--|--|
|  | 更新 |
|  | 起動のヘルプ |
|  | E ラーニング VOD |
|  | Prime CM についてバージョンおよびライセンスの詳細を表示します。 |
|  | フィルタ |
|  | テーブル列の表示をカスタマイズします。この機能を使用すると、いくつかの列を非表示できるほか、行をテーブルの上または下に固定できます。 |
|  | テーブル ビューからグラフ ビューに切り替えます。 |
|  | グラフ ビューからテーブル ビューに切り替えます。 |

